

農山漁村地域整備計画 事前評価調書

計画の概要	計画の名称	岐阜県農山漁村地域農業農村整備計画(草地畜産基盤整備分野(東濃東部地域))
	計画策定主体	岐阜県
	対象市町村	恵那市、中津川市
	計画期間	令和6(2024)年度～令和11(2029)年度(6年間)
	計画の目標	岐阜県東濃東部地域の公共牧場(岐阜県東濃牧場)及び周辺農家の草地、利用施設を一体的に整備することで、利用農家の経営の改善を図るとともに、公共牧場を核とした地区全体の土地利用型畜産体系の確立を図る。
	定量的指標	(農地整備) ① 公共牧場を核とした地区全体の土地利用型畜産体系の確立を図るため、公共牧場及び周辺農家に対して意向調査を行い、事業実施計画1地区を作成する。 ② 草地整備改良(34.1ha)、草地造成改良(0.6ha)により飼料作物の生産量(単収)を18.7t/ha→31.1t/haとする。この整備により、岐阜県東濃牧場採草地(53.9ha)の飼料作物の生産量を1,008t→1,431tとする。 ③ 県内の酪農経営体からの乳用牛雌子牛(400頭/年→460頭/年)を引き受け、乳用牛初妊牛(380頭/年→440頭/年)を県内の酪農経営体に譲渡する。 ④ この整備により、岐阜県東濃牧場の飼料自給率を36.9%→38.9%にする。

ランク	評価基準	判定基準
評価 I	全項目が○である。	事業の実施
評価 II	1項目でも×がある。	計画の見直し

評価結果
評価 I

評価	項目	評価項目	評価	評価根拠
	目標の妥当性	・関連する計画との整合性が図られているか	○	ぎふ農業・農村基本計画:「安心で身近な「ぎふの食」づくり」の「食品安全保障の強化に資する生産・供給体制の構築」に「自給飼料増産に必要な施設整備や機械導入を支援」と位置付けられている。 酪農及び肉用牛生産近代化計画:計画の中で岐阜県家畜育成牧場を活用するため、新たに増頭に必要な施設・機械の整備について位置付けられている。
		・地域の課題に適切に対応する目標となっているか	○	利用農家の生産コストの低減や経営改善を図るため、早急に畜産農家の不採算部門を受け持つ公共牧場と周辺農家の草地、利用施設を一体的に整備していく必要がある。
	整備計画の効果・効率性	・整備計画の目標と定量的指標の整合性がとれているか	○	計画の目標を達成するため、項目ごとの具体的な数値を定量的指標としているため、整合性は図られている。
		・事後評価ができる適切な指標となっているか	○	定量的指標は事業実施により確認、または参加農家への聞き取りにより確認できる指標となっており、正確に事後評価できる。
		・構成事業の実施による効果を評価するための指標として適切なものとなっているか	○	定量的指標は本事業実施により期待される効果を数値化してのものであり、適切である。
	整備計画の実現可能性	・円滑な事業執行の環境が整っているか	○	県、市、公社による事業推進体制が整っており、円滑な事業執行が可能である。
		・地元の機運が醸成されているか	○	県、市、事業参加者の事業実施意欲は高く、事業実施に対する同意が得られている。